

問題 二4

	主な解答例	割合 (%)
○	エ	54.5
×	ア	31.2
×	イ	8.7
×	ウ	4.8
—	無解答	0.7

誤答ア【31.2%】

「点火」「火薬」については、間違いであると判断できるが、『口火を切る』という慣用句を知らないため、火種を選んだと考えられる。

■ 同一問題

平成 20 年度全国学力・学習状況調査 国語 A 6 三才
広島県 54.9% (全国 54.7%)

次の文ではどの言葉を用いるのが最も適切ですか。() の中のア、エから一つ選び、その記号を書きなさい。

エ 口火) を切った。

彼がこの討論の (ア 火種 イ 点火 ウ 火薬) を切った。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント等

- 分からない言葉に出会ったとき、常に辞書を引いて言葉の意味を確かめる習慣を付けさせましょう。
- 使おうとする言葉と類義語などを比較させ、より適切な言葉はないか生徒自身に検討させましょう。
- 推薦図書リストを作成するなどして、生徒が自分から本を読みたくなるための指導をしましょう。

更に

複数の文を比較させたり、「いつかは使ってみたい言葉」を書きためさせたりしましょう。
辞書の活用について、意図的な指導と日常的な指導の両方を充実させましょう。

- 「お父さんが、ろうそくに()を付けた。」「田中さんが、会議の()を切った。」「その時、鉄砲から()がこぼれた。」など、複数の文を並べて比較させ、「口火」が最もあてはまる文を選ばせたり、自分が使ってみたい言葉を書きためさせたりすることも有効です。(平成 21 年度全国学力・学習状況調査 中学校の結果を踏まえた授業アイデア例)《国立教育政策研究所》参照。)
- ある慣用句を学習する際に、似た意味の慣用句や、同じ動詞を使った慣用句(自腹を切る、手を切る、しらを切る など)を集めるなどして慣用句への理解を深めましょう。

<事例紹介> 福山市立一ツ橋中学校

意図的な辞書活用指導

ポイント

- 新出漢字は、音、訓、熟語の意味等について辞書を活用し学習させる。
- 辞書を活用した学習活動の課題も家庭で取り組ませる。

生徒のノート例

冗	眠	尾	煙	噴	跳	湾	碎	揚	沼	吉	濁	炉	釣	訂	唐	敏	漬	新出漢字
ジョウ	ミン	ビ	エン	フン	チヨウ	ワン	サイ	ヨウ	(シヨウ)	キチ	タク	ロ	(チヨウ)	テイ	トウ	ビン		音読
		お	お	ふく	はねる	くたける	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	ぬま	訓読
冗長	安眠	尾根	煙幕	噴火	跳馬	湾岸	碎石	高揚	沼地	大吉	濁音	暖炉	釣り銭	改訂	唐紙	敏速	漬け物	熟語
文章や話などがむだに多く、たらたらと長い。	じやまされないので、安らかにぐすりとおむること。	山の頂上と頂上とを結んでつづくウマの背のよつな部分。	戦争で味方をおおいかくし敵の目をくらますためにまきさらすこと。	火山が爆発して火山灰や溶岩などをふきだすこと。	ウマの背のむかたをたかした色に手をつけてかかし、美しげな距離をきそう。	湾に沿った海岸。	岩石を砕いて適当な大きさにすること。	気分がぐっともり上がること。	沼や水たまりの多い、低くてじめじめしたところ。	古いなどで、運勢がきあわめてよいこと。	五十音図で濁点をつけて書き表される点。	石炭やまきなどをたいて、部屋をあたためる、西洋風の暖房器具。	代金よりも大きな額のお金をはらったときに返される差額のお金。	まちかいを直したり、よりよくしたりするために、本などの内容をなおすこと。	美しい色やもようのある紙をはたいた紙。	動作などがてきぱきして、すばい。	野菜を塩やみそ、ぬかなどいっしょにして重しをし、味をしみこませたもの。	意味

漢字学習と合わせて熟語の意味調べをすることで語彙が増え、辞書を引く習慣が身に付きます。意図的な指導を丁寧に繰り返すことが大切です。

呉市立呉中央中学校

日常的な辞書活用指導

- 常に机の上に辞書を用意させておき、自主的に活用させる。

いつも机の上には辞書が置いてあり…



生徒が自主的に辞書を活用しています。



なるほど
こうい
う意味か。

教師が指示しなくても、生徒自身が必要に応じて辞書を引く習慣を付けることが大切です。

そのためには、辞書を引くよさを生徒に伝えるとともに、初めのうちは自主的に辞書を活用している生徒を教師が見つかり、意識的に評価するなど、継続した指導が必要です。

◆ この事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

意味調べをする際に、すぐに調べるのではなく、文脈から「どういう意味だと思おうか」を自分で考えさせ、仮説を立てた後に実際に辞書で調べさせる。

仮説と意味が違えば印象に残りやすくなると思いました。(生徒の振り返りより)

⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	
嘆賞	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿

仮説辞書



課題2 登場人物の心情の把握

県の通過率 57.1% ➡ 65.2%

問題 三3(3)

年度	通過率(%)	無解答率(%)
平成 25 年度	65.2	12.5
平成 24 年度	57.1	6.0
平成 23 年度	27.5	17.3
平成 22 年度	51.4	12.0

主な解答例		割合(%)
○	もう周りの人に流されず、自分で考えて自分だけの答えを出す	65.2
×	直前の言葉を否定するだけの解答	6.9
×	「旅人として生きていく」という内容	2.1
×	「～生き方」につながっていない	2.6
—	無解答	12.5

(3) II には、みなどの気持ちを表す言葉が入ります。あとの文に続くように、三十文字以内で書きなさい。

次の の中には、この文章を読んだ二人の生徒の会話が書かれています。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

※ 資料編 参照
関口尚 「はとの神様」による。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント等

- これまでの「基礎・基本」定着状況調査報告書(平成 21 年度～平成 23 年度)で示したポイント等を確認しましょう。
 - ・文章全体を読んであらすじをとらえる。 ・心情に変化を与えた出来事を明確にさせる。
 - ・心情が表れている表現(直接表現, 間接表現)を教える。 ・読み取ったことを個人でまとめさせ、生徒同士で交流させる。 ・交流した後個人でまとめさせる。 ・関連する作品を読ませる。 等
- 教材文をしっかりと生徒に読ませましょう。

更に ➡ **個々の生徒が考えたことをしっかりと表現できる言語活動を設定しましょう。**

- 授業の中で、いつも一部の生徒の発表や、グループ発表だけで終わっていると、個々の生徒が思考・判断・表現しなくても済んでしまい、無解答になることも考えられます。個々の生徒がしっかりと考え、表現する必要がある言語活動を単元を貫いて設定しましょう。

その際、設定した言語活動が単元で付けたい力にふさわしいかどうかの吟味が必要です。(教師自身が教材研究としてその言語活動を行ってみると、本当に付けたい力を付けることにつながるかが見えてきます。)

<事例紹介> 熊野町立熊野中学校

ポイント

単元を貫く言語活動

読み取った主人公の心情を小学校5年生に分かりやすく説明しよう。

(単元の主な流れ)

単元の見通しをもつ。

心情を読み取るために
・大まかな物語の展開
・主人公を取り巻く環境
・主人公の人柄
という三つの視点で情報を整理させる。
主人公の心情を想像する。

主人公の心情を説明する文章を書く。

観点に沿って交流する。

再度個人で見直す。

- 過去の「基礎・基本」定着状況調査報告書で示したポイントを基に、「心情が表れている表現（直接表現、間接表現）」を生徒に三つの視点で示し、情報を整理させる。
- 整理した情報を基に、叙述に基づいて主人公の心情を説明する文章を書かせる。

整理した情報を基に、主人公の言動の意味を考える。

生徒のワークシート

「盆土産」学習プリント2
二年(三)組 (四)番名前()

心情を読み取るために必要な情報を集めよう!

①大まかな物語の(展開)を読み取ろう!

【起】雑魚を釣っている。
【承】父が帰ってくる。
【転】土産のえびフライをみんなまで食べる。
【結】父が東京へ。

②主人公を取りまく(環境)を読み取ろう!
姉・祖母・主人公 父はめ、たに帰らない。
家族を大切にして、前後にある関係
父、母親

③主人公の(人柄)を読み取ろう!
「えびフライ」と言っていました。
「また行かなく」といって気持ちだった。
父親に心配させたくない。
また行かなく、えびフライ、おいしかた、また買ってきてほしい

④七十字以上百字以内。
⑤本文に書かれていることをこままえて、理

④主人公の気持ちでも説明できる。
家族全員がそろって食べる。

三つの視点で情報を整理させる。

心情を読み取る視点を明確に生徒に示すことで、生徒自身が課題解決的に学習していくことができます。



<事例紹介> 庄原市立総領中学校

ポイント

単元を貫く言語活動

最後の文章の続きを書いて、少年の父親に対する心情を表現しよう。

続きの文を書くために、文章全体から登場人物の心情、人柄を読み取る必然性が出てきます。



- 文章全体の構成・展開を捉えさせる。
- 場面の移り変わり、人物の心情を表現していることばを手がかりにさせ、状況や心情の変化を考えさせる。
- 読み取った心情や人柄を続きの文として表現させる。

僕は、
お父さん、えびフライを持って早く帰ってきて、
また家族全員で食べるよ。
ナメシイけど、仕事を一生けん命しているお父さんが好きだよ。がんばって。
と、いつの間にか紙を飛ばした。

生徒のノート

まじで締にいたいけどいられないという気持ちで、手紙に頭を掻きながら打ち消している。
涙がはそうに、だからそれを隠すように。

父親の様子を叙述から、父親の心情を読み取る。

えびフライのことが頭から離れななた。
あの味を思い出してしまいました。
つぶやいていたのがなになにな、おもわず「えびフライ」と言っていました。
えびフライが大好きな父さん、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが大好きです。
文章全体から少年の心情を想像し、主人公の言動の意味を考える。